

令和7年度第2回 社会教育委員会議
議 事 概 要

- 1 開催日時：令和7年10月21日（火） 14:00-15:00
開催場所：八尾市立青少年センター3階 集会室
出席委員：田中委員・中道委員・二宮委員・村尾委員・
角田委員・吉野委員・赤松委員・山根委員（順不同）

2 議事案件

- 1 令和7年度第1回社会教育委員会議録の承認について
- 2 報告事項について
 - 【生涯学習課】
 - ①「第73回女性フェスティバル2025」の開催について
 - ② 令和6年度八尾市生涯学習センター指定管理者事業報告について
 - ③「第65回八尾市こども会連合親善ソフトボール大会」の開催について
 - ④ 令和7年度「少年を守る日」「家庭の日」運動強調月間について
 - ⑤ 令和7年度「青少年育成と家庭教育支援市民大会」の開催について
 - 【生涯学習課、桂青少年会館、安中青少年会館】
 - ⑥「八尾市における青少年健全育成のあり方」について
 - 【観光・文化財課】
 - ⑦観光・文化財課関連事業（令和7年10～12月）について
 - ⑧令和6年度文化財施設指定管理者事業報告について
 - 【文化・スポーツ振興課】
 - ⑨文化・スポーツ振興課事業概要（令和7年10～12月）について
 - ⑩令和6年度八尾市立スポーツ施設指定管理者事業報告について

3 意見交換の概要（○：委員、●：事務局）

- 1 令和7年度第1回社会教育委員会議録の承認について
※全委員異議なし
- 2 報告事項について

- 先だって、各地区の青少年育成協議会に対してヒアリングを実施し、さまざまな意見をいただき、取り組みの改善を図っている。そのひとつとして、八尾市こども会連合親善ソフトボール大会について、これまで各地区のこども会に加え、中学校区までの単位で結成されたチームが出場できるものとしていたが、出場チームが少なくなる中で、今年度からは地区の範囲をさらに広げた連合チームについても出場できるものとした。ただし、連合チームの出場については、地区のこども会の間で調整が必要となるなど課題も残っている。
- 「八尾市における青少年健全育成のあり方」に記載している今後の事業展開については、大いに期待できるものである。特に今後の推進体制として掲げている内容については、市内における青少年健全育成の拠点づくりとして、中心的な取り組みになると考える。一方で、市内全域で青少年の育ちを見守るにあたって、予算面においては、十分に措置できるのか。

- 青少年健全育成については、地域の各種団体のご協力をいただいている中で、教育委員会としては、今後も地域と連携しながら取り組みを広げていきたい。予算面については、現状のもので取り組んでいるところであるが、青少年がいきいきと活動できるよう予算の確保を図っていきたい。
- 「八尾市における青少年健全育成のあり方」に記載している「スクールキッズ・スクエア」について、モデル事業として2校で実施しているということだが、地域での放課後子ども教室とは別の組織になるのか。
- 「スクールキッズ・スクエア」については、学校施設の一部を開放し、大人の見守りのもと、こどもたちが安全に活動できる場を目的としたモデル事業となる。将来的には、地域の団体や他の青少年関係の部署とも連携しながら取り組みを進めていきたいと考えている。
- 地域との連携も見据えるならば、地域への丁寧な説明が必要と考える。その他、町会やこども会などの地域団体の活性化のためにも、各団体活動に関する市民への魅力発信をしっかりとしてほしい。
- 今回いただいた意見を念頭に置いて、取り組みを進めていきたい。なお、「スクールキッズ・スクエア」は、全児童を対象とした事業であり、学童保育を利用していないこどもたちも参加することができる。見守りを行う指導員は、学童保育の指導員と、当該事業で雇用している者で構成される。今後は、既存の学童保育と放課後子ども教室との事業内容の整理を行いながら、地域の団体との連携も検討していく。
- 「青少年育成と家庭教育支援八尾市民大会」については、大変意義のある取り組みだと考えるが、どのように周知を行っているのか。
- 青少年健全育成八尾市民会議の構成団体に対する案内をはじめ、公共施設でのチラシの配架やホームページ掲載などにより周知を行っている。今後、他の事業も含め、参加率を上げられるよう、周知方法は工夫する必要があると考えている。
- 令和6年度の総合体育館の収支について、約4,500万円のマイナスとなっている理由は何か。
- 総合体育館については、フィットネスも含めて施設の利用料収入が想定よりも少なかったことや昨今の人件費の上昇と物価高騰に伴い清掃等に係る委託費の上昇などにより、支出が収入を大きく上回った状況にある。
- 「八尾市における青少年健全育成のあり方」に記載している青少年会館における低学年育成事業の見直しや、西郡地域における複合施設による事業展開を通して、こどもの居場所づくりや他世代による交流を図っていくことについては、良い取り組みになると考えるが、青少年会館のある地域への説明や周知は行っているのか。
- 両青少年会館の運営委員会で説明を行っているとともに、今後、利用しているこどもたちの保護者にも周知していきたいと考えている。
- 八尾市生涯学習センターについて、スタジオを含む健康増進コーナーは終了したのか。
- 同コーナーについては、令和7年9月末で廃止となったが、施設の指定管理者において、主に地下1階のミーティングルームなどの他の部屋を活用して、健

康増進に向けた事業は継続している。

- 指定管理者制度を導入している社会教育施設についてのモニタリングのチェックは、本会議で実施するのか。
- 指定管理者制度に係るモニタリングについては、市が実施しており、例年9月の各常任委員協議会において、評価結果を報告するものとなっている。
- 「八尾市における青少年健全育成のあり方」に記載している「青少年健全育成がめざす方向性」で掲げている3つの方向性について、それぞれを点として捉えるのではなく、線でつながったものとして、スパイラルの形で発展していくイメージを持って、PDCAサイクルを意識して取り組んでほしい。
また、青少年の健全育成に係る取り組みを考える際には、こども会だからといって小学生の段階のみを捉えて考えるのではなく、幼年者から大人になるまでつながったものとして捉え、青少年のエネルギーを社会で活用できるようなスパイラルの流れを創造することにより、青少年の自己有用感が高まると考える。その際も、大人が全て関与するのではなく、青少年が自主的に考え、行動できるような仕掛けが必要になる。
- 実際に、地域の集会所において、夏休みに開催しているこども向けの教室では、こどもたちが自らルールなどを考え、いきいきと活動している様子が窺え、自発的な活動が青少年の成長につながるものだと感じている。
- 教育委員会においては、今年度から非認知能力の育成を重点事業として位置付け、これまでの関連する取り組みを見える化するとともに、新たな取り組みも含めて展開する中で、こどもたちが自ら考えて行動し、自身の達成感や人との共感につながるよう取り組んでいる。今回いただいた意見については、しっかりと施策に反映し、青少年を中心に据えて、社会全体で育成していけるような環境づくりに取り組んでいきたいと考える。

4 その他

- ・第68回全国社会教育研究大会大阪大会 近畿地区社会教育研究大会〔大阪大会〕について